



学友会 会報

第27号

発行 中日本自動車短期大学学友会事務局

〒505-0077 岐阜県加茂郡祝町深萱1301
TEL<0574>26-7121 FAX<0574>26-0840

URL▶<http://www.nakanihon.ac.jp/gakuyu/> E-mail▶gakuyu@nakanihon.ac.jp

会報発刊にあたって

中日本自動車短期大学
学友会会長 丹地章夫



本年も会報発刊の時期となりました。会員の皆様方には、益々御健勝で御活躍のこと、お慶び申し上げます。

平成二十年度の事業計画も、順調に実施されており、ここに御報告申し上げます。

さて、今回は会員の皆様方に何よりもまず、お伝えしなくてはならないと考えていることがあります。それは、ここ二三年の志願者数の極端な減少です。

十八歳人口の減少が叫ばれて久しく、このような状況が近い将来、確実に来るであろうことは予想してまいりました。これまでも何度か皆様方にもお願いしてまいりましたが、これほどの速度で駆け寄ってくるとは想定外でした。

学校としても、様々な対策を検討、実施中ではありますが、我々学友会としても、学校側と協力して具体的な行動に移していけたらと思っています。今後そのことで皆様方にも何かと、お力添えをお願いすることがあると思います。

呉々も皆様のご協力をお願いいたします。

たします。中日本自動車短大の発展なくして、我々学友会の発展もありません。

OBとして、一人でも多くの入学希望者確保に向け、体験入学、キャンパス見学会、同窓子女入試制度、学友会推薦制度等を十分に活用いただきますよう、もし必要のある方は遠慮なく事務局まで申し出て下さい。

また卒業生の就職に関しても、皆様の御力添えを重ねて、お願いいたします。

最後になりましたが、今回の会報発刊にあたり、多大な御協力、御援助を賜りました、大学関係者並びにOB諸兄に対しまして、心より厚く御礼申し上げます。



本学PR活動 ご協力依頼にあたって



近年、同窓生推薦での入学者の割合が多くなってきた。本学において、同窓生の皆様のご支援、ご協力は必要不可欠であり、今後さらなるお力添えをいただきたいと考えております。そこで、更なる試みとして事業主、または個人店舗をお持ちの会員の方に、本学PR活動ご協力の依頼を行っております。

①本学のPR：各店舗にパンフレット、ポスター等を置かせていただき、本学のPRに協力していただく。
②遠方地域対策：特に遠方地域の入学希望者は、本学まで見学に来ることが容易ではない。また、入試直近の要項請求者に対しては、本学から資料を送付する時間的な口アが生

じ、出願に結びつけられない可能性がある。その場合、要項請求者の最寄りの簡易連絡事務所からの要項発送、あるいは直接本人に取りに行ってもらうなどとして、時間的な口アを解消したい。
③協力店舗紹介：今後、協力店舗に対しては、地区別に学友会会員店舗マップを作成し、宣伝告知をさせていただく予定です。

以上三点了。
また、今までごおり会員の皆様の同窓生推薦もよろしくお願ひいたします。
会員の皆様におかれましては、日々ご多忙中のごころ誠に恐縮ではございますが、趣旨ご理解の上、より多くの会員の皆様にご協力いただければ幸いに存じます。

ごあいさつ

中日本自動車短期大学

学長 櫻谷 興道



学友会の皆様、平素は本学の教育に多大なご支援を賜り、厚くお

礼申し上げます。

現在、自動車整備士を養成する短大・専門学校は、少子化、就職環境の好転、大学進学志向、自動車への関心低下などにより入学定員の確保に苦心する状況が続いています。学友会の皆様には、例年同窓生推薦入学に多大なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

一方で、自動車産業のグローバル化に伴い、アジア諸国における自動車技術者の育成が求められ、本学への留学志願者は増加傾向にあります。このような社会の動向に対応して、本学は今後の存続発展を目指して教育実施体制の改革を決定しました。

平成21年から自動車工学科の入学定員600名を300名に減員し、新たにモータースポーツエンジニアリング学科(3年課程50名)、国際自動車工学科(3年課程50名)に改組転換を行います。3学科共通して二級整備士資格の取得が可能で、モータースポーツエンジニアリング学科は、メカニックとしての道を歩む者に、さらに高度な技術力と思考力および創造力を涵養し、エンジニアとしてモータースポーツ分野のみならず、広く世界の自動車産業分野における実践的リーダーとなる人材を育成します。また、国際自動車工学科は、留学生を中心に自動車の専門知識と高度な技術、グローバルな視野と国際教養を身に付けた人材を育成します。3学科とも建学の精神「技術者たる前に良き人間たれ」に基づいて「人間性豊かな自動車技術者を育成し社会に貢献すること」を目的とします。さらに、専攻科に開設した一級整備士コースと車体整備士コースの教育内容を充実して総合的な自動車整備士養成機関を目指し、国家資格の取得および就職実績を向上し、学生の入学目標達成を支援します。これらの教育改革により学友会の皆様や社会の人々の期待に応えられる優秀な自動車技術者を育成していく所存であります。

		1年次	2年次	3年次	4年次
自動車工学科 2年制 定員300名	2級自動車整備士コース	卒業時に、2級自動車整備士資格取得		専攻科	
	NEW 1級自動車整備士コース	2年後、自動車工学専攻へ進学 ※		1級自動車整備士資格取得可 2+2=4年間	
	NEW 自動車車体整備士コース	2年度、車体整備専攻へ進学		自動車車体整備士資格取得可 2+1=3年間	
NEW モータースポーツエンジニアリング学科 3年制 定員50名	卒業時に、2級整備士資格取得可 2009年4月設置許可申請中				
NEW 国際自動車工学科 3年制 定員50名	卒業時に、2級整備士資格取得可 2009年4月設置許可申請中				

※1級自動車整備士コースは2年卒業時、2級ガソリン自動車整備士・2級ジーゼル自動車整備士資格取得が必須。

NACから学友会員の皆様へのお知らせ

広報部

学友会の皆さん、日頃は母校に対して多大なご支援を賜りまして、厚くお礼を申し上げます。前年度広報部では学友会会報の中で、同窓生推薦入学試験について皆様にお願いましたところ、同窓生の皆様方から60名の受験生推薦をいただきました。ご推薦いただいた同窓生各位には、紙面をお借りしてお礼申し上げます。次年度も本年度と同様の同窓生推薦入学を行いますので、より多くのご推薦やご紹介を賜りますようお願いいたします。

同窓生推薦入学試験の実施について

「同窓生推薦入学試験」は、同窓生の推薦があれば、高等学校長の推薦書は必要ありません。また、選抜方法は「面接」のみになります。

また、中日本自動車短期大学卒業生のご子息・ご息女を推薦された場合は、入学金20万円を全額免除、卒業生または在学生の紹介による推薦の場合は入学金の半額(10万円)が免除になります。

皆様のご子息・ご息女、兄弟姉妹、友人・知人の方々の中で、本学に入学を希望される方がいらっしゃれば、ぜひこの入試制度をご活用ください。

くわしくは、同封資料をご覧ください。

逆風の中

中日本自動車短期大学事務局長 野末明宏



学友会の皆様には、日頃から多大なるご支援をいただき、心より御礼申し上げます。私も昨年1月の就任以来、本学の現状理解、課題解決へ取り組んでまいりましたが、改めて学校経営の難しさに直面している次第です。特に本年度においては、学友会の皆様の多大なるご支援にも関わらず、入学生数は311名と過去最低と

なり、昨今の少子化、四年制大学や専門学校との競争激化、高卒求人への活発化、若者のモノ離れなどの社会的影響をまともに受けた形となりました。特に地元での落ち込みが大きく、現在、懸命な回復努力を行っています。

一方、教育機関として学校の魅力向上への取り組みは活発に進めており、教育施設の充実、新カリキュラムや新コースの設定、人間力(社会人基礎力)教育の導入など着々と実

モータースポーツー夢の実現へ！

中日本自動車短期大学教授 森本一彦

「エフワン」と聞いて胸躍る人も少なくないと思います。フォーミュラー(F1)は、世界のモータースポーツの頂点に位置し、日本でそれに相当するのが「フォーミュラ・ニッポン」です。

本学は、本年5月に名門レーシングチーム「チームルマン」とパートナーシップを締結しました。今後、各レースに数名の学生がチームルマンのピットクルーとして参加し、研修を行うこととなります。国内最高峰のフォーミュラレースの現場は、わずか数日であっても、そのプロフェッショナルな世界に触れることができ、

何十・何百時間の講義とは比較にならない貴重な体験となります。

モータースポーツは、自動車の普及・発展に伴って、乗り物を使って地上を「速く安全に」走りたいという人間の欲求を具現化したものです。特にレーサーで成功するためには、ドライバーの技量だけでなく、マシンの機械性能、メンテナンス技術、開発技術の全てが揃うことが要求されます。また、その後の市販車に

何十・何百時間の講義とは比較にならない貴重な体験となります。



施してきました。

また、今後更に抜本的な学校改革を進めるべく様々な取り組みを行っています。例えば、従来から設置してきた自動車工学専攻や車体整備専攻をコースとして設定し、入学時から選択可能とします。また、現在の自動車工学科の入学定員枠内でモータースポーツや開発に興味がある方に対しての専門学科や、増加している留学生に対する専門学科の設置を文科省に届出中です。自動車工学科は当学にとって生命線ですが、今一度原点に立ち戻って、時代の要求に素早く対応しながら、改めて自動車技術への魅力を向上させることが

フィードバックされた技術も数多くあります。

このため、本学ではモータースポーツに関わる自動車工学を体系的学問として3年課程のモータースポーツエンジニアリング学科を設置する準備を進めています。対象は、モータースポーツ分野や、自動車メーカー等のエンジニアを志す学生とし、自動車工学の専門知識と高度な技術、および広い視野と協調性を身に付けた人材育成を目指すものです。教材として、フォーミュラカーの入門カテゴリーである「スーパーF1」のマシンを使用します。

学友会の皆様方におかれましては、このような新しい試みに対し、是非ともご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

重要だと考えています。

景気も踊り場を迎え、今後どのように時代が推移していくか不透明ではありますが、本学のような技術実務型大学の重要性が今一度見直されるかと思えます。このような中、学友会の皆様にも更なるご支援をお願いしたく、何卒よろしくお願いたします。

最後に、学友会の皆様方の、益々のご活躍とご繁栄を祈念いたします。

在学生より

専攻科車体整備専攻 森田泰弘さん



2級整備士合格を目指して2年間頑張った結果として、専攻科を卒業し、車体整備専攻に入学して2ヶ月が経ちました。専攻科は本科とはまた違った雰囲気にも、徐々に慣れてきました。

本科の授業では自動車の基礎を中心に勉強したのでに対し、専攻科では、本科で習ったことをもとに、実車を使って車体整備技術を学びます。

車体整備の授業は、自動車整備とはまた違った難しさがあり、覚えることだらけでも不安ですが、少しでも多くの技術や知識を身に付けることができれば、授業に取り組み、車体整備の資格を取

得できるように頑張りたいと思います。

修了まで1年を切りました。この残された時間を同じ専攻科の仲間たちとともに、有意義なものになるように学生生活を送りたいと思います。

2年生

佐藤孝昭さん



私は、中日本自動車短期大学に入学して様々なことを体験してきました。その中でもイタリヤ短期留学は、一番思い出に残る体験でした。短期留学では、フェラーリ本社に研修生として入り、エンジンの組み立てを行いました。エンジンの構成が頭の中にあるので、多少言葉が通じなくても組み付けることができました。

「学生時代にフェラーリのエンジンを組んだ」これは私の中で生涯残る経験です。NACだからできたことだと思います。

経験の積み重ねが人の人生だと思えます。より濃い人生にするために、NACだからできること、NACでなければできないこと、残りの在学期間にとりかかることを自分ものにするかは、自分次第です。これからは積極的に物事に取り組み、充実した人生にしたいと思えます。

専攻科は本科とはまた違った雰囲気にも、徐々に慣れてきました。

登録試験の合格率

技術研修課

平成20年3月23日に実施された2級整備士登録試験の結果を報告します。

4泊5日の直前合宿を終えた第40期卒業の学生が受験しました。

2級ガソリンの合格率は91.1%、2級ディーゼルの合格率は77.0%の結果となりました。総合すると、92.6%の合格率となっております。

カソリンにおいては目標である90%以上の合格率をクリアし、かつ、3年連続で90%を超える合格率を達成しました。しかしながら、ガソリンの合格率が前年度よりも低くなったこと、ディーゼルの合格率が全国平均(82.7%)を下回っていることから、尚一層の努力が必要と考えております。

また、小型1級自動車整備士及び自動車車体整備士の合格率は100%を達成することができました。

来年度も今年度同様、100%の合格率を目指して全力で取り組んでいきたいと思えます。最後に、学友会の皆様のおますご活躍とご発展を祈念いたします。

【国家資格取得率】



2006年度 収支計算書

2006年8月1日～2007年7月31日(単位:円)

科 目	当 期			前 期 決 算 額
	予 算 額	決 算 額	差 額	
収入の部				
基本財産運用収入	10,000	23,803	▲13,803	14,046
会費・入会金収入	9,000,000	8,505,000	495,000	9,530,000
雑収入	6,000	11,620	▲5,620	14,930
受取利息	3,000	1,365	1,635	100
雑収入	3,000	10,255	▲7,255	14,830
特定目的基金取崩益		10,850,250	▲10,850,250	
当期収入合計(A)	9,016,000	19,390,673	▲10,374,673	9,558,976
前期繰越収支差額(B)	4,901,954	4,901,954	0	8,377,538
収入合計(C)((A)+(B))	13,917,954	24,292,627	▲10,374,673	17,936,514
支出の部				
事業費	9,070,000	7,583,654	1,486,346	6,339,893
会報制作費	1,900,000	1,702,092	197,908	1,638,601
特別企画費	0	1,021,390	▲1,021,390	0
エコノパワー協賛金	10,000	3,412	6,588	7,087
記念品費	3,400,000	2,653,695	▲253,695	2,411,325
支部活動費	2,000,000	302,008	1,697,992	307,147
広報費	500,000	91,480	408,520	393,325
補助金	400,000	50,000	350,000	0
福利費	1,200,000	1,122,000	78,000	932,000
奨学金	500,000	500,000	0	500,000
名簿改定準備金	150,000	133,707	16,293	147,908
事業雑費	10,000	3,870	6,130	2,500
会議費	1,650,000	1,375,425	274,575	1,354,912
総会費	300,000	186,953	113,047	153,930
役員会費	350,000	513,682	▲163,682	333,622
役員会旅費	1,000,000	674,790	325,210	867,360
事務費	2,410,000	2,609,885	▲199,885	1,911,755
業務委託費	450,000	450,000	0	450,000
通信印刷費	1,800,000	2,145,655	▲345,655	1,362,215
事務用品費	10,000	1,460	8,540	9,345
事務機器リース料	70,000	0	70,000	51,450
事務雑費	80,000	12,770	67,230	38,745
雑支出	45,000	47,413	▲2,413	13,954
慶弔費	15,000	7,413	7,587	13,954
退職者慰労金	30,000	40,000	▲10,000	0
運用収入正味財産繰入	20,000	19,828	172	14,046
特別補助	3,800,000	3,000,000	800,000	3,400,000
創設者銅像建造の協賛	0	0	0	1,400,000
ポツカ1000kmの補助	0	0	0	2,000,000
創立40年記念寄付	0	3,000,000	▲3,000,000	0
予備費	100,000	0	100,000	0
当期支出合計(D)	16,975,000	14,636,205	2,338,795	13,034,560
当期収支差額(E)((A)-(D))	▲7,959,000	4,754,468	▲12,733,296	▲3,475,584
次期繰越収支差額(E)+(B)	▲3,057,046	9,656,422	▲12,709,493	4,901,954

2006年度 貸借対照表

2007年7月31日現在(単位:円)

科 目	2006年度 (A)	2007年度 (B)	増減 (B)-(A)
資産の部			
流動資産	5,010,619	9,676,767	4,666,148
現金	84,379	190,917	106,538
普通預金	933,732	4,995,851	4,062,119
郵便貯金	30,950	526,539	495,589
定期預金	3,961,558	3,963,460	1,902
固定資産	54,533,643	43,703,223	▲10,830,420
特定目的資産	54,533,643	43,703,223	▲10,830,421
学生会館建設定期預金	34,525,530	24,733,216	▲9,792,314
奨学金積立定期預金	20,008,113	18,970,005	▲1,038,108
有形固定資産	1	1	0
器具備品	1	1	0
資産の部合計	59,544,262	53,379,989	▲6,164,273
負債及び正味財産の部			
負債の部	108,665	20,345	▲88,320
流動負債	108,665	20,345	▲88,320
未払金	108,665	20,345	▲88,320
正味財産の部	59,435,598	53,359,644	▲6,075,954
(うち特定目的資産)	54,533,643	43,703,222	▲10,830,321
(うち正味財産増加額)	▲3,461,538	▲6,075,954	▲2,614,416
負債及び正味財産の部合計	59,544,262	53,379,989	▲6,164,273

監査報告書

私たちは、会則24条の規程に基づき、中日本自動車短期大学
学友会の平成18年8月1日から平成19年7月31日までの2006年
度における会務の執行並びに同事業年度一般会計について監
査を実施しました。

監査の結果、会務の執行は法令及び規約に従い、総会並びに
役員会の議決に基づき誠実に行われており、また、上記の一般
会計は適正に処理されており、各計算書類は学友会の収支及
び財産の状況を正しく示しているものと認めます。

平成19年9月26日

監査役 鈴木 泰成



監査役 可知 陽之郎



事業担当よりお知らせ

以前より様々な意見をいただきましたが、役員会及
び代議員会で決定したのでお知らせします。

福利厚生として長い間“長島スパランド”を利用しており
ましたが、今年度から“明治村”“リトルワールド”に変更とな
りました。詳細は同封の資料及び割引券をご確認ください。

平成19年度 事業計画

- 1、総会
● 大学近辺で開催する。開催場所、日程
については役員会にて検討する。
- 2、会報
● 例年通り発行する。
- 3、学友会ホームページ
● 内容を充実させる。
- 4、支部活動
● 学生募集と会員の親睦をもてる積極
的な支部活動を行う。
- 5、キャンパスグッズ
● 活用方法を検討する。
- 6、学園 大学との懇談
● 理事や大学執行部との懇談会を行う。
- 7、准会員との交流
● 学生会自治会クラブ役員との交流会を
10月中旬に予定
- 8、退職者記念品
● 年次退職者に記念品を贈る。
- 9、卒業記念品
● 学友会規約を配布する。
- 10、奨学金
● 3千円程度の記念品を贈る。
- 11、OBへの福利厚生
● 在学生に対して奨学金を支給する。
- 12、OBへの福利厚生
● 適切なものに変更する。長島温泉の割
引券は平成20年2月29日をもって終
了しました。リトルワールド、明
治村の割引券を送付します。
- 12、大学への協力体制
● 学生募集への協力をする。
● 同窓生子女推薦を増やすために協力
する。
- 13、その他
● 大学主催のエコノパワー大会に協賛
する。

編集スタッフより

学友会会報27号発刊にあたり、
ご協力いただきました方々に心よ
り厚く御礼申し上げます。